

JA全農えひめ情報

みらいへど

1

2022・January

新春特別号



CONTENTS

- ① 会長年頭あいさつ
- ③ 新春企画
- ⑨ NOW NOW COOKING 〈今月の素材〉豚ロース肉

会長年頭あいさつ

新年を迎えて



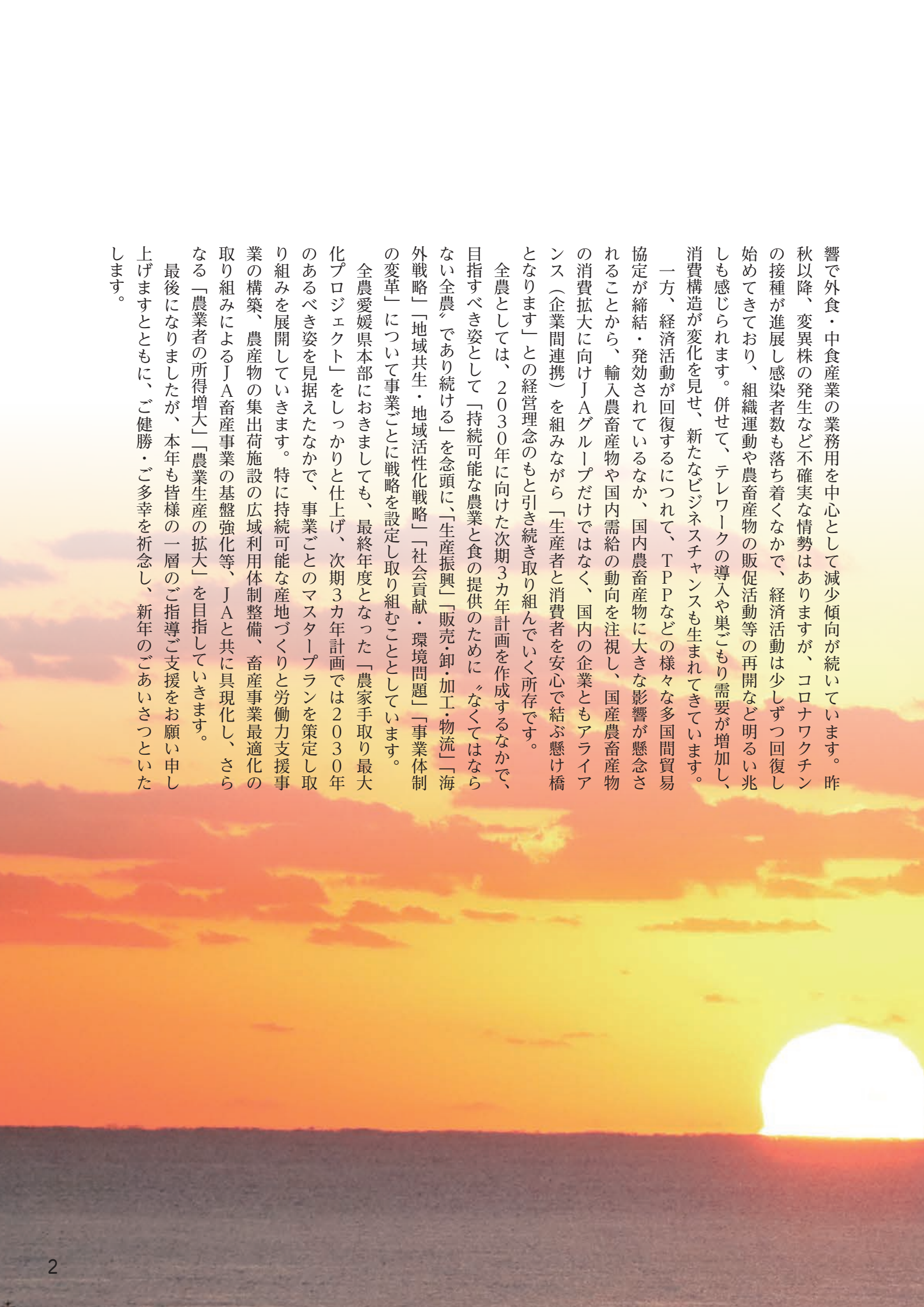
全国農業協同組合連合会愛媛県本部
運営委員会 会長

菅野 幸雄

新年を迎えるにあたり、謹んでごあいさつ申し上げます。組合員ならびに読者の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたことと存じます。

平素は、全農愛媛県本部ならびにグループ会社の事業全般にわたり格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、農業をとりまく情勢は、基幹的農業従事者の大幅な減少や高齢化、耕作放棄地の拡大が続き、加えて国内農畜産物の消費量はコロナ禍の影響



響で外食・中食産業の業務用を中心として減少傾向が続いています。昨秋以降、変異株の発生など不確実な情勢はありますが、コロナワクチンの接種が進展し感染者数も落ち着くなかで、経済活動は少しずつ回復し始めてきており、組織運動や農畜産物の販促活動等の再開など明るい兆しも感じられます。併せて、テレワークの導入や巣ごもり需要が増加し、消費構造が変化を見せ、新たなビジネスチャンスも生まれてきています。

一方、経済活動が回復するにつれて、TPPなどの様々な多国間貿易協定が締結・発効されているなか、国内農畜産物に大きな影響が懸念されることから、輸入農畜産物や国内需給の動向を注視し、国産農畜産物の消費拡大に向けJAグループだけではなく、国内の企業ともアライアンス（企業間連携）を組みながら「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋となります」との経営理念のもと引き続き取り組んでいく所存です。

全農としては、2030年に向けた次期3カ年計画を作成するなかで、目指すべき姿として「持続可能な農業と食の提供のために、なくてはならない全農」であり続ける」を念頭に、「生産振興」「販売・卸・加工・物流」「海外戦略」「地域共生・地域活性化戦略」「社会貢献・環境問題」「事業体制の变革」について事業ごとに戦略を設定し取り組むこととしています。

全農愛媛県本部におきましても、最終年度となった「農家手取り最大化プロジェクト」をしっかりと仕上げ、次期3カ年計画では2030年のあるべき姿を見据えたなかで、事業ごとのマスタープランを策定し取り組みを展開していきます。特に持続可能な産地づくりと労働力支援事業の構築、農産物の集出荷施設の広域利用体制整備、畜産事業最適化の取り組みによるJA畜産事業の基盤強化等、JAと共に具現化し、さらなる「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指していきます。

最後になりましたが、本年も皆様の一層のご指導ご支援をお願い申し上げますとともに、ご健勝・ご多幸を祈念し、新年のごあいさついたします。

生産・販売・購買事業一体となつて

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指します！



J A 全農えひめ 県本部長

せきおか みつあき
関岡 光昭

「農家手取り最大化
プロジェクト」の着実な実践

編集部 新年、おめでとうございます。

関岡 あけましておめでとうございます。

編集部 本日は、最終年度を迎えた「農家手取り最大化プロジェクト」の実践状況や、J A 全農えひめの令和4年の取り組み方向などを関岡光昭県本部長に詳しくお聞きしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

まず、「農家手取り最大化プロジェクト」とはどのようなプロジェクトでしょうか。

関岡 J A全農えひめでは、令和元年度から3年度まで、「**農家手取り最大化プロジェクト**」を展開し、J Aグループ愛媛の創造的自己改革実践における「**農業者の所得増大**」「**農業生産の拡大**」を目指しています。

重点施策として「マーケットイン（実需者ニーズ）に基づく生産・販売事業の確立」「生産トータルコストの低減」「営農・経済事業の機能・体制強化」を具現化。さらに、スマート農業など新しい技術を活用した営農支援と地域実情に沿った労働力支援体制の確立など、J A・農業者への支援対策や県域機能の強化によるJ A事業の補完・支援に取り組んでいます。

また、「食糧」「果実」「野菜花卉」の推進プロジェクトを設置し、9つのメインテーマごとにチームとなって取り組んでいます。各プロジェクトにはプロジェクトリーダーを選出しています。各プロジェクトのリーダーと意見交換会を開催し、進捗状況を共有しながらそれぞれが連携を取り、ビジネスモデルの確立に向かって取り組んでいます。

栽培技術の確立と効果的な消費宣伝

編集部

食糧部門について、「ひめの凧」は販売開始から3年が経過しましたが、非常に人気の高いブランドとなりましたね。

関岡 令和元年度にデビューした「ひめの凧」ですが、好評につき毎年完売しています。作付面積も年々増えており、令和3年度は312ha（前年123ha）となりました。販売面では、米全体の需要が減少する中、「ひ



▲県内で高い人気を誇る「ひめの凧」

めの凧」は消費者の期待も大きく、高単価を維持することができましたが、まだまだ需要に対する供給が追い付いていません。今後「ひめの凧」の受入体制を整備し、令和4年度では作付目標1,000haを目指したいと考えています。

業務用多収米については、契約栽培への取り組みを行っています。J Aと連携をとりながら生産者へ栽培技術の支援を行い、令和3年度の作付面積は、77ha（令和2年度71ha）と拡大しました。しかし、目標の作付面積100ha、反収10俵がまだまだ達成できていないので、食味に優れた「にじのきらめき」や耐倒伏性・晩植適正の「ほしじるし」を中心に来年度以降も進めていきます。

編集部 麦についてはいかがでしょう。愛媛の「はだか麦」は令和2年度で34年連続生産量日本一となりました。

関岡 「はだか麦」は、「ハルヒメボシ」への全面切り替えや、排水対策といった栽培技術の確立、好天候などにより、令和元年度から3年連続で豊作となり



▲はだか麦を使った新商品

ました。一方で、コロナウィルス感染拡大による業務用需要低減等の要因もあり、需要と供給にミスマッチが発生しています。この対策として、はだか麦を使った新商品の開発や、新たな販路の確保、小麦への品目転換などに取り組んでいます。日本一の生産量を維持しながら、それぞれの取り組みを来年度以降も進めていきます。

また、昨年11月にJ Aえひめ物流株の第一営業倉庫をはだか麦1,000tが保管できる低温

倉庫に改修しました。現在、県内JAが保有する農業倉庫が老朽化している中、この低温倉庫を積極的に活用し、高品質なはだか麦の安定供給を目指します。

愛媛県産かんきつのブランド力強化とPR

編集部 果実部門についてはいかがでしょうか。

関岡 愛媛では、「温州みかん」や「いよかん」をはじめ、「紅まどんな」「甘平」や「せとか」など様々なかんきつが周年で供給されています。令和5年度からは、新たにオリジナル品種「紅プリンセス」の販売が開始される予定です。一方で、基幹品目である「温州みかん」「いよかん」等も生産量を維持・安定化させていく必要があります。対策としてJA全農えひめでは、反収向上・正品率向上に向け、「農家手取り最大化プロジェクト」を基軸に、定点土壌診断を行ってきました。土壌分析やモデル園地で実証し、得られた結果を広く周知し、安定生産に向けた土づくりへの改善対策に繋げて

いきます。

販売面では、「愛媛みかん大使」によるPR活動は今年で63代目と長い歴史があり、全国での認知度も非常に高い状況です。一昨年から新型コロナウイルスの影響で、店頭での販促活動が大きく制限されましたが、動画を用いたデジタルでのPRなど、新生活様式に合わせた販促活動を展開しています。また、愛媛と関わりのあるタレントを起用した「愛媛かんきつ部」では、健康面を切り口にしたPR



▲デジタル媒体を活用した広告を展開



▲2021愛媛みかん大使任命式

活動を行い、県産かんきつの販売促進やブランドイメージの向上を図りました。

令和3年9月には、玉津地区（JAえひめ南）と明浜地区（JAひがしうわ）で柑橘類の広域選果がスタートしました。県内各JAの選果場では、設備の老朽化や作業員の人手不足が課題となっており、今後もJA域を越えた広域選果の実現に向け、JA全農えひめが調整機能を果たしていきます。

編集部 豪雨災害から3年が経

過しましたが、復興の取り組みについて教えてください。

関岡 平成30年7月の西日本豪雨では、園地や農道などのインフラ全般にわたって大きな被害がありました。復興については、愛媛県が原形復旧・改良復旧・再編復旧の3つの道筋を立てて素早い対応を行い、JAグループ愛媛も連携して取り組んできました。まだ道半ばではありますが、生産者の声を受け止めながら産地づくりをさらに進めていきます。

県域機能の強化と最重点品目の生産拡大

編集部 野菜花卉部門では、どのような取り組みを行っていますか。

関岡 令和元年3月、四国中央市に「愛媛さといも広域選果場」を設置し、東予地区4JAが参加してさといも「伊予美人」の広域集出荷に取り組んでいます。JA間の品質格差是正、ロットの拡大による安定出荷、物流コスト等の出荷費用低減など、生産者手取りの最大化に向けて



▲愛媛さといも広域選果場（愛媛県四国中央市）

一定の成果を上げることができました。「伊予美人」は愛媛県内で栽培面積が着実に拡大しており、東予地区だけでなく、中予・南予でも生産が増えてきています。将来的には他の地域にも取り組みを広げていきたいですが、現在の広域選果場だけでは受け入れきれなくなるので、サブ選果場の設置などを含めて方策を検討していきたいと思っています。

ます。また、「伊予美人」の取り組みをモデルケースとして、他の品目にも広げていきたいと考えています。

他にも、「農家手取り最大化プロジェクト」のメインテーマとして夏秋きゅうりといちごの生産振興に取り組んでいます。きゅうりでは、生産者に対し苗や資材の助成を行っており、新規就農者の増加や既存農家の面積拡大といった成果は上がっていますが、逆に高齢化で農家を廃業する生産者も多く、また、



▲「伊予美人」選果の様子

多様な担い手ニーズへの対応

極端化した気象による日照不足等も起こり、結果的に面積や生産量は増えていません。気象に適した栽培管理の徹底や、収穫作業時の労働力支援活用などを通じて生産量の維持拡大を図っていききたいと考えます。

いちごでは、令和3年度から選果パックの切り替えを行い、県内の出荷パック数増加を目指しています。

編集部

国内の農家戸数は減少傾向が加速しています。愛媛県においても、担い手対策は重要ですが、どのような取り組みを行っているのですか。

関岡

平成30年度から営農支援課（JAグループ愛媛担い手サポートセンター）へ愛媛県から職員を受け入れています。併せて、JA全農えひめの職員を愛媛県農地・担い手対策室へ派遣し、県域担い手対策機能の強化を図ってきました。

新規就農者確保対策として、県内や首都圏で就農相談会を開



▲テクノプラザ愛媛で行われた就農相談会

催しました。また、新型コロナウイルス感染拡大を受け、Webツールを活用し、自宅にいながら園地の様子や収穫風景などが体験できるオンライン就農体験会を開催し、愛媛農業の魅力をPRしました。

また、令和2年度には新型コロナウイルスの影響で、みかん収穫時期に雇用していたみかんアルバイトが不足するという問題が発生しましたが、JAや関係機関と連携し、PCR検査の導入によって、なんとか県内

外からアルバイターを確保することができました。

今後も引き続き、人材派遣の専門機関や県・行政などと連携し、新規就農者の確保・育成や労働力支援確保対策の取り組みを進めていきます。

編集部 TAC活動について愛媛の取り組みを教えてください。

関岡 愛媛県はJATACを全国的に先駆けて取り組んできましたが、JAの要員減少や新型コロナウイルスの影響により、「生産者と・とことん会って・コミュニケーション」が難しくなっています。今後はSNSの積極的活用等、時代に即した取り組みを進めていく必要があると考えます。

生産資材コスト低減による農業所得の増大を目指す

編集部 生産資材についてはいかがでしょうか。

関岡 肥料事業において、品質安定と安定供給、価格の抑制を図るため、化成肥料・果樹配合の銘柄集約に取り組んできました。昨今では原料産出国が輸出

に制限をかける動きがあり、肥料原料の高騰や、原料自体が確保できないといった状況が発生しています。そういった中でも全農は世界的な原料ソースの確保と銘柄集約によって肥料を安定的に供給する役割が果たせており、組織力が発揮できていると感じます。

また、農業においては大型規格農薬の推進に取り組み、県内でも普及が進んできました。

肥料農薬物流拠点の広域化については、現在JAおちいまばりで試験的に取り組んでいます。が、広域物流では農家への個別配送が基本となるため、実証データを積み上げてこれからの取り組みの方向性を決定していきます。

農機事業については、令和3年7月に県内4JAと共に「愛媛県JA農機協同事業体」を発足し、一体運営を開始しています。組合員へのサービス向上や購買力強化、営業と修理の分業化、修理工賃の適正徴収などに取り組み、各農機センターの事業体制の強化を図ります。今後は他の県内JAの参加を呼びか



▲「愛媛県JA農機協同事業体」の調印式を実施

け、さらなる事業拡大を目指します。

段ボール工場は、全農グループ唯一の直営工場の強みを生かして、多様化する包装形態への対応や、省力化・低コスト化、最適なパッケージの企画提案を行っていきます。また、将来的に実施する農産物のパレット輸送化に向けて販売・物流部門と連携を図り、T11型パレットサイズに適合し高品質で積載効率の高い出荷用段ボールの規格を品目ごとに集約していく必要があります。

生産基盤の維持・拡大と販売力強化

編集部 畜産事業は販売をJA全農ミートフーズ㈱に移管しましたが、今後の取り組みを含めて教えてください。

関岡 JA全農ミートフーズ㈱は、全農グループの食肉販売・加工・物流拠点として全国展開を図っており、販売事業を移管することで、当該会社のスケールメリットを享受することができそうです。現在起こっている大手の量販店の系列化の流れに対しても、競争力のある事業体制を構築していくことが今回の取り組みの狙いです。JA全農えひめのブランド「伊予牛」絹の味」や「ふれ愛・媛ポーク」については引き続きJA全農ミートフーズ㈱と一緒に推進していきます。

編集部 生産事業については？

関岡 畜産は設備の初期投資に大きな金額が必要となり、特に家族経営では事業継続の大きな課題となっています。生産者に安心して畜産事業を実施してもらうために、全農が畜舎・施設



▲肥育豚舎の様子

導入時の初期投資を軽減する事業を構築しました。今回、JAえひめ南管内で取り組んだのは、家族経営による養豚生産です。全国の畜舎賃貸事業は牛が中心で、豚舎の賃貸事業はJA全農えひめが初めての取り組みであり、注目を集めています。

編集部 豚熱や鳥インフルエンザが全国的に広がっています。

関岡 豚熱や鳥インフルエンザ等が広がらないように、防疫対策および侵入防止対策を行政と一緒にやっていく必要があります。

豊かで暮らしやすい 地域社会づくりへ

あります。豚熱については、淡路島で発生し、愛媛県も豚熱ワクチン接種推奨地域に指定されたことを受け、愛媛県に対しワクチンにかかる費用助成を要請し、対策を徹底しています。

編集部 生活事業について、教えてください。

関岡 生活事業は中四国の広域事業所という形となりましたが、他県の先進的な事業取り組み等を積極的に取り入れていき、安定した事業運営を目指します。

また、東温市北野田にある直売所とコンビニの一体型店舗「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」は今年の4月で6周年を迎えます。おかげさまで来店客数も年々増えており、認知度も高まってきています。今後も商品の品揃えの充実化等に努め、地域の皆さまに愛される店づくりを行っていきます。

編集部 近年ではネット通販サイトJAタウンの「JA全農え



▲「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」かんきつ売り場

ひめ直販ショップ」が好調ですね。

関岡 「愛媛かんきつ」のブランド力を活かして、JAタウンの全ショップの中で2年連続売上1位となりました。特に紅まどんなは果実部門で4年連続売上1位、「JAタウンアワード殿堂入り商品」として不動の人氣を誇ります。需要に応えられる数量確保や発送体制の確立に努め、引き続き鮮度や味、品質面をアピールしながら継続利用と新規顧客の拡大につなげたいと思います。

愛媛農業の先を見据えて

編集部 では、最後に今年の抱負とメッセージをお願いいたします。

関岡 コロナウイルスが発生し、生産者の高齢化やJAの広域合併検討など、農業を取り巻く環境は劇的に変化しており、迅速な対応が求められます。アンテナを常に高く張り、やるべきことをしっかりやっていく必要があります。また、他の企業や関係機関とも情報交換をしながら、5年先10年先に向けて、取り組みを進めていくことが重要になります。

先を見据えて、一方では組合員の声を聴きながら、今まで以上にJAとの連携を深め、なくてはならない全農として機能発揮に努めていきます。

今月の素材

豚ロース肉

『ふれ愛・媛ポーク』



赤身と脂身のバランス絶妙
肉の甘み、旨みを堪能しよう



指導／愛媛調理製菓専門学校 山崎 翔 先生

シリアピステーキ わさびとレモンのソース

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約297kcal

豚ロース肉	100g × 4枚
タマネギ	1 / 2個
白ワイン	50cc
水	100cc
ワサビ	10g
レモン果汁	1 / 3個分
塩・コショウ	適量

〈作り方〉

- ① 豚肉の筋を断ち切り、みじん切りのタマネギを全体に貼りつける。
- ② 1～2時間経てば、タマネギを外し、豚肉に塩・コショウをする。
- ③ フライパンで豚肉を焼いて取り出し、②のタマネギを弱火でじっくりと炒める。
- ④ 白ワインを加えアルコールを飛ばし、水・ワサビ・レモン果汁を順に加え、塩・コショウで味を整える。
- ⑤ 豚肉をカットして皿に盛り、④のソースをかける。

タンドリーポーク

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約279kcal

豚ロース肉	100g × 4枚
ヨーグルト	100g
ケチャップ	20g
④ ニンニク(すりおろし)	2g
生姜(すりおろし)	2g
カレー粉	3g
塩・コショウ	適量

〈作り方〉

- ① 豚肉の筋を断ち切り、フォークで数か所穴をあけ、塩・コショウで下味をつける。
- ② ④をボウルで混ぜ合わせる。
- ③ ①を②に漬け込み、1時間以上置く。
- ④ ②のマリネ液を拭き取った③をフライパンで焼き、カットして皿に盛る。

梅と大葉を挟んだミルフィーユカツ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約392kcal

豚ロース肉(薄切り)	16枚
大葉	8枚
カリカリ梅(小)	8個
粉チーズ	15g
卵	1個
パン粉	100g
薄力粉	適量
塩・コショウ	適量
揚げ油	適量

〈作り方〉

- ① 大葉は縦半分に、梅は種をとり粗みじん切りにする。
- ② 豚肉を並べ、塩・コショウと粉チーズを振りかける。
- ③ 豚・大葉・豚・梅・大葉・豚の順に重ねる。
- ④ 薄力粉をまぶし、溶き卵を絡め、パン粉をつける。
- ⑤ 180℃の油できつね色になるまで揚げる。

★カリカリ梅の食感がアクセントに！

ポンジュース

エコバックプレゼント

「ポンジュースエコバックプレゼント」キャンペーンを実施中！
皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

応募期間【2022年1月～2022年3月31日当日消印有効】

詳細はこちら▶

※賞品の内容は、都合により変更になる場合がございます。※画像はイメージです。

大 小 (各1枚)

ラベルレス
ポンジュース
350ml ペットボトル X12本

対象商品
ポンジュース800ml
ペットボトル

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-923-1522

<https://www.ehime-inryo.co.jp>
(通販専用) <https://www.pom-j.com>



化成肥料 14-14-14

正味20kg

供給

全農

肥料共同購入運動

～新たな購入方式でコスト低減を実践～

運動の取り組み内容

- ① JAグループ愛媛で肥料銘柄(一般高度化成)を集約
- ② 予約数量を積み上げ、集中生産によるコスト低減
- ③ 「くみあい肥料の品質」基準に沿った製造

ご予約・ご購入はお近くのJAへ

第44回 えひめみかん祭り

44th Ehime Mikan Festival

届けます。
柑橘王国から
心をこめて



2022年
1月22日(土)・23日(日)

いよてつ高島屋8階 スカイドーム特設会場

午前10時～午後7時(※23日(日)は午後6時まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ステージイベントや試食は中止とし、規模を縮小して展示、販売等を行います。



えひめみかん祭り開催にあたり、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、予防対策を行っております。
皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。マスク着用にご協力ください。

●混雑時は入場制限を実施させていただく場合がございます。
●発熱症状があるなど、体調不良の方は入場をご遠慮ください。
●手指のアルコール消毒にご協力ください。
●その他、主催者が行う感染対策にご協力をお願いいたします。

展示&販売会

果実コンクール・愛媛かんきつの販売

参加
無料

みかん数あて

2日
連続

みかんの数を当て、豪華賞品をGET!!

優良園地や話題の新品種・珍しい品種の果実の紹介、
愛媛かんきつのPR動画放映など
※感染状況によっては内容変更・中止となる場合があります。

主催：愛媛県 JA全農えひめ 愛媛県果樹同志会 愛媛新聞社

後援／愛媛県議会、一般社団法人愛媛県農業会議、愛媛県農業協同組合中央会、JA愛媛県信連、愛媛県農業共済組合、株式会社日本政策金融公庫松山支店、
全国共済農業協同組合連合会愛媛県本部、えひめ愛フード推進機構(順不同)

協賛／いよてつ高島屋、NHK松山拠点放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、FM愛媛、朝日新聞松山総局、毎日新聞松山支局、
読売新聞松山支局、産経新聞社、日本農業新聞、時事通信社松山支局、共同通信社松山支局、日刊工業新聞社松山支局(順不同)

VOC
FREE

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。

UD
FONT



ehimenosyoku

「えひめの食」Instagram

Follow Me!



えひめ～どはWEBでも読めます

<http://www.eh.zennoh.or.jp>